



正面

岡崎市旧本多忠次邸は、本多忠次(1896-1999)が昭和7年(1932)に東京・世田谷の敷地約7,100㎡内に建てた住宅と壁泉の一部を移築復原したものです。建物はフランス瓦の屋根で外壁は色モルタル仕上げとするなど、当時ブームとなっていた田園趣味を反映させたスパニッシュ様式を基調としています。1階は西側に車寄せをつけた玄関、南側中央には三連アーチのアーケードテラス、続く東端には2階まである半円形のベイウインドを配置しています。また前庭ではスパニッシュ建築様式には欠かせないといわれる壁泉のある大きなプールが設置されています。



北東側



プール(壁泉)

本多忠次は本多忠勝(1548-1610)を始祖とする旧岡崎藩主本多家の子孫です。忠次の父である本多家の十七代目・忠敬(1863-1920)は、宮内省式部官・貴族院議員を歴任する一方、岡崎の城址公園整備や教育振興に貢献した人物です。その次男として生まれた忠次は、学習院を経て当時の最先端の学問領域であった東京帝国大学文化大学哲学科で学ぶなど、新しい時代を生きた新世代。その忠次が周到な調査や準備期間を経て、敷地選定から建築基本設計を自分自身で行ない、36歳の時におよそ一年の期間をかけて完成させたのがこの住宅です。



本多忠次(大正7年)

昭和の洋館 Okazaki City Former Residence of Honda Tadatsugu 岡崎市旧本多忠次邸

閉館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時半)
休館日 月曜日
(月曜日が祝日の場合は翌日以後の最初の休日でない日)
1月1日～3日、12月29日～31日、展示替期間

[所在地]
〒444-0011愛知県岡崎市欠町字足延40番地1
TEL・FAX0564235015

[概要]
敷地面積 約2,280㎡
建築床面積 約522㎡
建築構造 木造二階建て一部鉄骨
建築様式 スパニッシュ様式を基調
復原工期 平成22年8月～平成24年3月
開館 平成24年7月6日

[交通のご案内]
◎お車：東名高速道路「岡崎インター」から約5分。
◎公共交通機関：名鉄東岡崎駅の②番バスのりばから東公園口方面行きに乗車、「東公園口」下車、徒歩3分。



Okazaki City Former Residence of
昭和の洋館
Honda Tadatsugu

岡崎市
旧本多
忠次邸





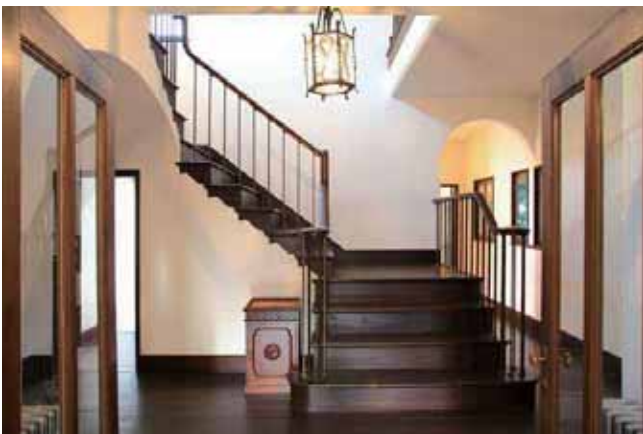
玄関



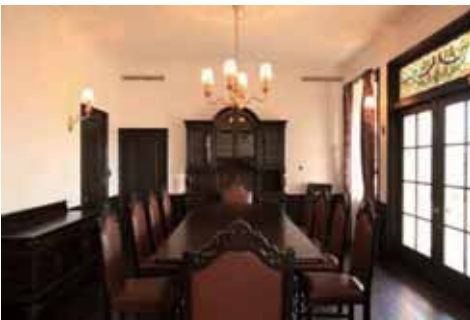
廊下



配膳室



広間



食堂



団樂室



日光室



湯殿

1階の南側には団樂室・食堂・夫人室など、北側には便所・浴室・台所・女中室などがあり、中央には廊下が通されています。2階は寝室・書斎・和室などが配置されています。外観は洋風ですが、和室と洋室を取り込んだ和洋折衷式が採用されており、プライバシーを高めた現在の住宅様式の前駆けといえる内部となっています。各部屋はそれぞれに趣向が凝らされており、ほとんどの家具は建築当初のオーダーメイドです。食堂や書斎では古典的で重厚な棚やテーブルセットが選ばれています。また、新しい芸術様式として一世風靡したアール・デコ様式で統一したお茶室、銀色を基調としたモダンな寝室、そのほか照明器具・モザイクタイル・スタンドグラスも見所の一つです。



寝室



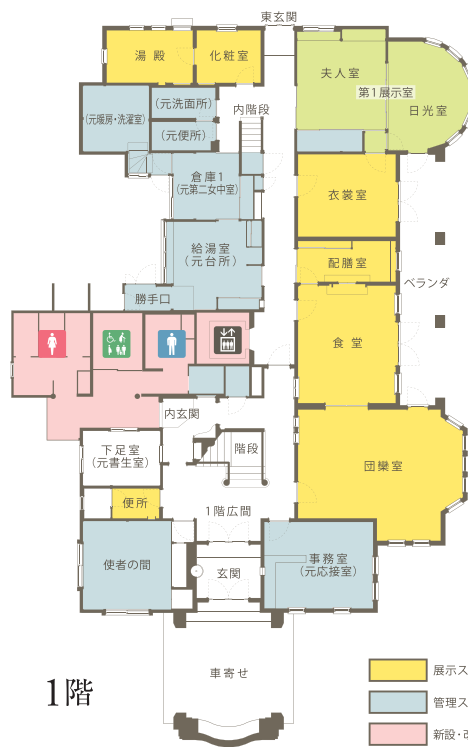
書斎



浴室



お茶室



客間・次の間



壁泉



消火栓



照明



照明



スタンドグラス